

【論 文】

幼児教育における鍵盤ハーモニカの導入指導について

岩 瀬 由 佳

About the Introduction Instruction of the Keyboard Harmonica
in the Preschool Education

Yuka IWASE

はじめに

小学校では、現行の学習指導要領音楽編解説「2 内容の取扱いと指導上の配慮事項」において、鍵盤ハーモニカの指導については、「視覚と聴覚の両面から音を確かめつつ演奏できる各種オルガンや鍵盤ハーモニカ、(中略) 児童にとって身近で扱いやすい楽器の中から、学校や児童の実態に応じて選ぶようにすることが大切である。」⁽¹⁾と記載されている。このように、「鍵盤ハーモニカを指導すること」とは明記されていないが、現在使用されている2社の教科書会社には、鍵盤ハーモニカの指導が掲載されている。

一方、音楽研究大会等の発表の場では、幼稚園の子供が合奏で鍵盤ハーモニカを演奏している様子を見ることが度々あり、幼稚園や保育所の実習訪問では子供が鍵盤ハーモニカを練習している様子を見かけることもある。

しかし、今までの幼稚園教育要領や保育指針において、鍵盤ハーモニカの取扱いについて、明記されていないため、幼稚園や認定こども園・保育所によっては、鍵盤ハーモニカを指導していたりしていなかったりと様々であることを気づいた。さらに、小学校へ就学後の児童の鍵盤ハーモニカへの興味や技能にそれぞれ違いがあることを感じていた。そこで、幼児教育において、鍵盤ハーモニカの取扱いや指導の実際を調べることにした。

1 幼稚園教育要領・認定こども園教育保育要領・保育所保育指針における鍵盤ハーモニカの位置づけ

幼稚園教育要領の領域「表現」の内容(6)は「音楽に親しみ、歌を歌ったり、簡単なリズム楽器を使ったりする楽しさを味わう。」⁽²⁾とあり、簡単なリズム楽器の表記はあるが、鍵盤楽器についてはない。その他に、「必要に応じて様々な歌や曲が聴ける場、簡単な楽器が自由に使える場などを設けて、音楽に親しみ楽しめるような環境を工夫することが大切である。」⁽³⁾とある。さらに、「幼児期において、音楽にかかわる活動を十分に経験

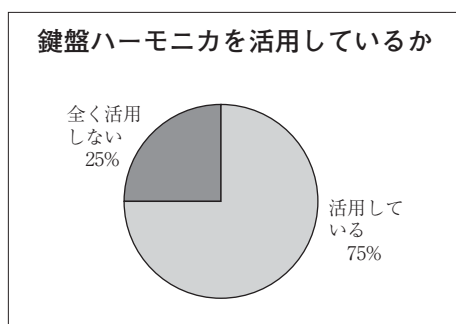
することが将来の音楽を楽しむ生活につながっていくのである。」⁽⁴⁾とある。幼児教育では、幼児自らが音や音楽で遊び、表現する楽しさを味わうことが大切であるとわかる。

2 現場における鍵盤ハーモニカの使用状況アンケート調査

教育要領や教育保育要領、及び保育指針において、鍵盤ハーモニカの使用についての言及はない。しかし、使用している状況がそれぞれの園によって違うのではないかとと思われる。そこで、幼稚園・認定こども園・保育所から調査園を抽出し、使用状況や指導内容などについて調査することとした。

調査は、長崎県内地域とし、調査園数は、35園、調査人数は、52名となった。園の中で、指導体制や指導内容・方法が確立しているところと、指導者に任せられているところとあると感じられたので、複数の回答が寄せられた園についても、個人の回答を結果として挙げた。

①- 1 使用状況

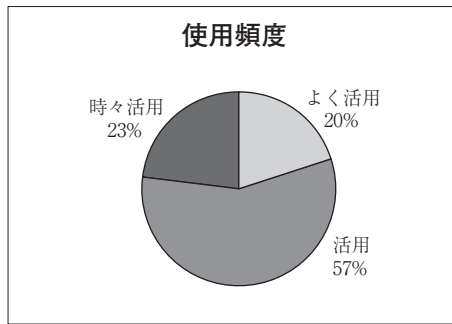


活用している園が75%とかなりの園が使用していることが窺える。谷村・門脇(2012)の「就学前教育としての鍵盤ハーモニカ導入の指導に関する一考察」によると、大阪府内の幼稚園教諭・保育士対象の調査では、78園中54園という約7割が幼稚園・保育所において鍵盤ハーモニカを使用しているとの報告がある。このことから、鍵盤ハーモニカの使用に関する調査について、本論の調査と大阪での調査の差は見られないため、おおよそ7割の園が使用しているのではないかと考える。一方、調査のために、直接話を伺ったときには、「学芸会の前に、少しだけ使う」と回答した園もあったため、次に、使用頻度について尋ねた。

①- 2 使用頻度

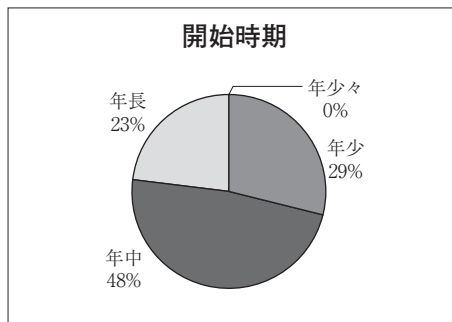
「よく使用する」「使用する」を含めると、ほぼ80%の教員・保育士が鍵盤ハーモニカを使用していることがわかる。鍵盤ハーモニカを使用していない園が3割弱であったことを含め、小学校へ入学してきたときには、地域の違いもあると思うが鍵盤ハーモニカそのものを触ったり演奏したりしている子供が、かなりの数いると認知しておく必要があるようだ。

谷村・門脇(2012)の全国の幼稚園調査結果では、44園中よく活用及び少し使用するが



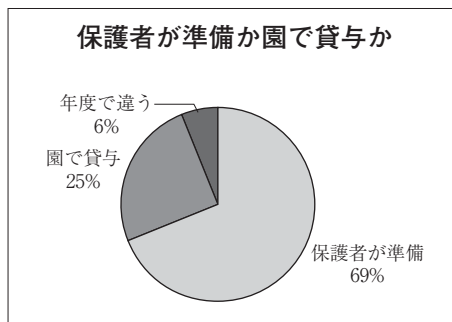
が20園（45%）ずつ、あまり使用しないが4園（0.9%）という結果であった。谷村・門脇の全国対象の調査では、58園中全く使用しないが、14園（24%）あった。本論では①-1で使用状況を調査しているため、①-2の本調査では、「全く使用しない」回答を抜いて割合を算出した。全く使用しない割合は、①の使用状況の結果とほとんど同じ結果となった。使用頻度に関しては、「時々使用」と「あまり使用しない」という調査文言の違いのためなのか、地域性の違いなのか、回答数に大きな違いが出ている。

②使用開始時期



年少々は、概ね3歳以前の子供のため、鍵盤ハーモニカを使用することは無いようである。概ね4歳から5歳の年中である子供たちに使用を開始する園が多い。この時期に、学芸会や音楽会で、楽器を使い旋律を演奏させる園が増えてくるのではないかと考えられる。

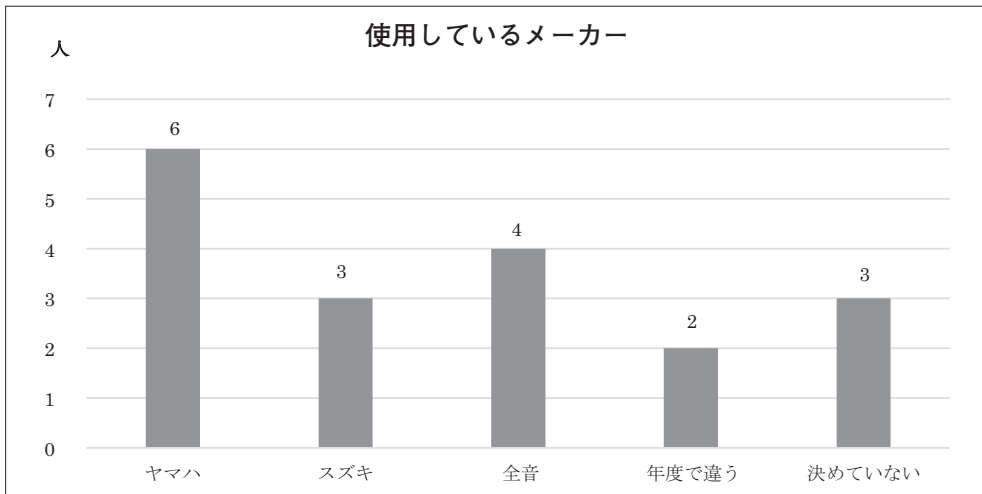
③鍵盤ハーモニカの準備の仕方



保護者に準備を依頼する園が多いことがわかる。一方で、園で鍵盤ハーモニカの本体だ

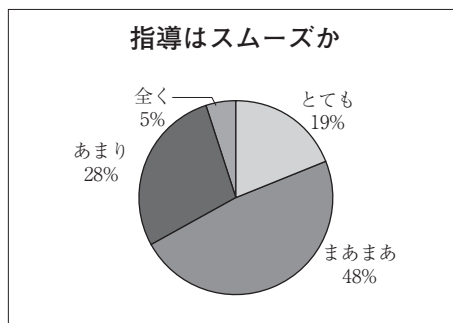
けを貸与し、歌口のみを保護者に購入をお願いしている園もある。また、「年度ごとに違う」という園の方針が決まっていない様子が見受けられる回答も少しある。

④メーカー



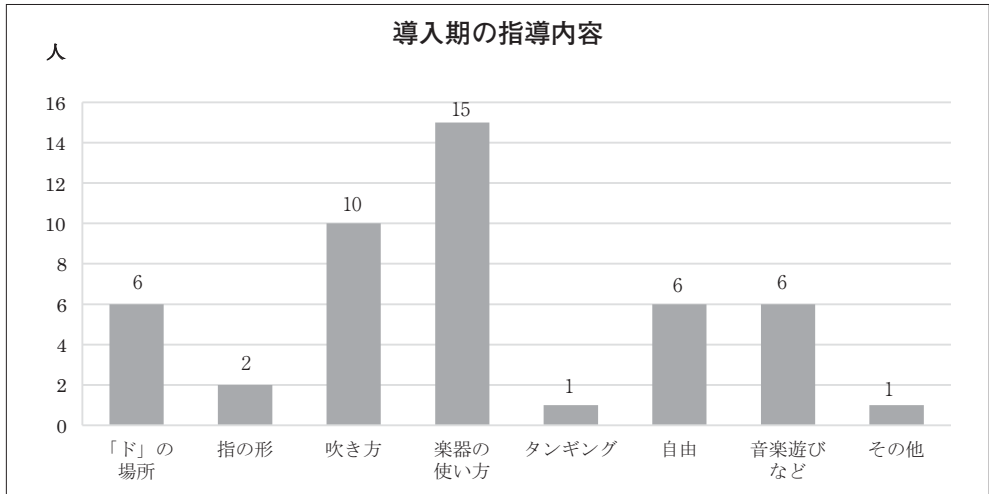
使用する鍵盤ハーモニカのメーカーを指定しているか否かを調査した。「年度で違う」や「決めていない」など、メーカーに対する園での取り決めなどは無い園もある。また、決まっている園に関しては、「取引をしている業者が、そのメーカーの鍵盤ハーモニカを取り扱っているから」などの意見もあった。すなわち、メーカーに対する園のこだわりは調査結果や個別回答からは見受けられないと考える。

⑤指導の困難さ



指導に関しては、「とてもスムーズに指導ができています」「まあまあ指導がスムーズである」を合わせると、ほぼ70%の方が、スムーズであると回答している。その一方で、「全くスムーズではない」と回答も少数ではあるが見られる。また、30%はあまりスムーズではないと感じ、「まあまあ」と回答している指導者も自信を持って指導はできていないのではないかと考えられる。

⑥初めて触る時の指導内容（複数回答可）



鍵盤ハーモニカを初めて子供に指導する際の内容を調査した。調査の際、鍵盤ハーモニカを使用する際の約束や決まり等の指導は除くことを前提とした。純粹に、鍵盤ハーモニカの指導について知るためである。

結果、「楽器の使い方」に一番多くの回答が見られた。これは、「鍵盤ハーモニカの吹き方」と同様に、楽器そのものの使い方について指導する内容である。

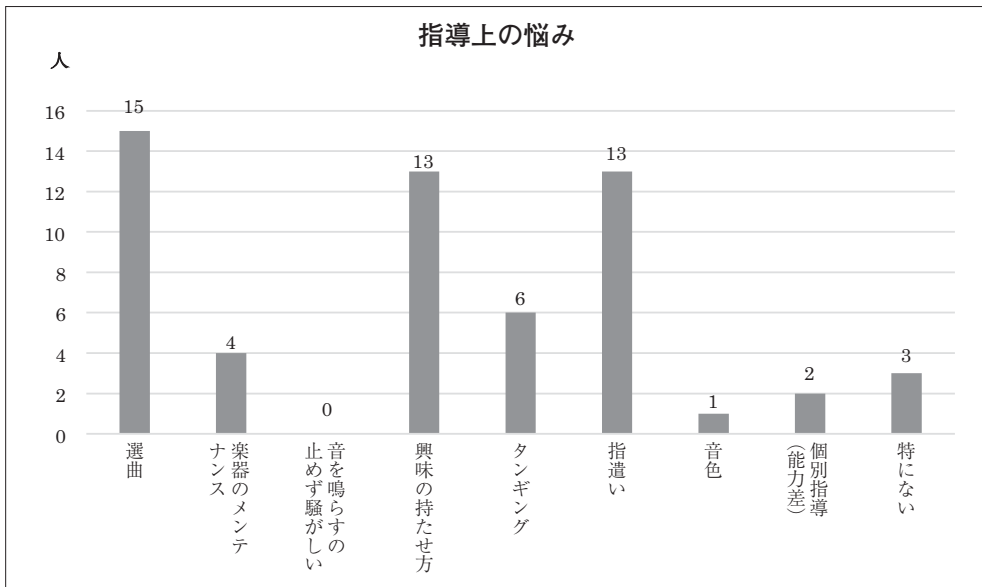
「自由にさわらせる」「音楽遊びを鍵盤ハーモニカでする」という内容も多く回答があった。この回答は、幼稚園教育要領の内容とつながると考える。幼稚園教育要領では、「幼児が遊び、生活が充実し、発展することを援助していくこと」^⑤とある。また、「幼児は、その幼児なりのやり方やペースで繰り返しいろいろなことを体験してみること、その過程自体を楽しみ、その過程を通して友達や教師と関わっていくことの中に幼児の学びがある。」^⑥とある。このように、鍵盤ハーモニカを通して自由に遊ばせることで、幼児が自ら学んでいることにつながると考える。

一方で、「『ド』の場所」「指の形」「タンギング」等、鍵盤ハーモニカを演奏する上で、必要な技能についての回答も見られる。特に、「『ド』の場所」については、合奏を指導する上で、必要なこととして多くの人が回答しているのではないかと考えられる。

⑦指導上の悩み

「鍵盤ハーモニカを指導する上での悩み」について調査した。その結果、一番回答が多かったのが、「選曲」である。子供に指導するために、どのような困りごとがあるのかと調査をしたのだが、「選曲」が一番多かった。これは、小学校とは違い、教科書がなく明確な教材がないことが原因と考える。さらに、教育要領や保育指針で鍵盤ハーモニカばかりでなく、楽器の指導について明記されていない。このことが、選曲に関して指導者が迷いを持つ原因ではないかと考えられる。

さらに、「興味の持たせ方」について悩みを持つ指導者が多い。指導する際に、最初は鍵盤ハーモニカに興味を持ったとしても、その興味の持続性が難しいのではないかと考え



られる。これは、選曲にもつながるのではないだろうか。

また、「指遣い」や「タンギング」「音色」など、鍵盤ハーモニカの技能の指導に関わる部分についても、特に「指遣い」に回答が多い。鍵盤ハーモニカを正しく演奏するには、指の置き方など正しくする必要があるが、この時期の子供に指の巧緻性をどこまで求めるかという悩ましい部分であろうと思われる。

一方で、「音を鳴らすのを止めず騒がしい」という回答は、一人も見られなかった。この結果については、幼児教育の指導のプロである先生方だからこその結果だと考える。小学校の鍵盤ハーモニカの指導では、指導力がまだ向上していない場合に、指導者が楽器を鳴らすのを止めるように言っても止めない場合があり、その部分で授業がスムーズに進まない授業を見ることがある。しかし、そういう悩みがないというのは、音楽だけでなく、様々な生活の場面でも「約束事」があり、普段から子供たちを巧みに指導できていることが窺える。

3 鍵盤ハーモニカの導入の指導

調査結果を踏まえ、鍵盤ハーモニカへの興味を持たせ方、吹き方、タンギング、及び導入期の選曲について指導の実践を行った。

3.1.1 指導内容<鍵盤ハーモニカの音に興味を持つ>

① 目的

これから使う頻度が多くなるであろう鍵盤ハーモニカに興味を持たせるために、鍵盤ハーモニカの音に興味を持たせることを目的とする。どのようにしたら、そのような音が出るのか、よく聴き、考えさせる。

②実践内容

幼児の動き	教師の手立て・動き	準備物
<p>＊「鍵盤ハーモニカ」のお約束</p> <p>①楽器の名前を正しく知る。</p> <p>②音を出さないときには、歌口を合体させる。</p> <p>③音を出しているときでも、吹くのを止める合図を決めておく。</p> <p>④吹くのが終わった時には、つば抜きをする。←最初の活動の後に確認</p> <p>○音を聴いて、自分たちに前にある物をから、選ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カスタネットを選ぶ。 ・コップを選ぶ。 ・瓶を選ぶ。 ・鍵盤ハーモニカを選ぶ。 <p style="text-align: right;">等々</p> <p>○それぞれ、鍵盤ハーモニカでやってみる。</p> <p>○代表で数名発表する。</p> <p>○鍵盤ハーモニカをしまう。</p>	<p>※子供たちが実践する前に、「鍵盤ハーモニカを吹くときのお約束」をする。</p> <p>○「この音なんだろう」クイズをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子供に隠して音を出し、どの楽器か物かを考えさせる。(全て鍵盤ハーモニカで音を出す。) <p>①カタカタカタカタ ・・・・鍵盤（音を鳴らさず）</p> <p>②ギロの音 ・・・・音を鳴らさずグリッサンド</p> <p>③風の音・・・つば抜き使用</p> <p>④牛の鳴き声・・・浅鍵盤</p> <p>⑤トレモロ ・・・・巻き舌をしながら吹く</p> <p>○どうやったらその音が出るか子供に鍵盤ハーモニカで実際に音を出させる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの良さをほめる。 <p>○自分でも、色々やってみましょう。</p> <p>○鍵盤ハーモニカの片付け方を知らせる。</p>	<p>★歌口用のハンドタオル。</p> <p>鍵盤ハーモニカ・コップ・瓶・カスタネット・ギロ等子供に身近な楽器や物を準備する。</p> <p>・つば抜きやタオルを使って吹く。 ・歌口を洗って乾かしてもよい。</p>

③評価

鍵盤ハーモニカの楽しさを知り、もつとできるようになりたいと思ったか。

3.1.2 振り返り及び考察

子供は、最初は他の楽器の珍しさに興味があり、興味のみで楽器を選択していたが、音を注意深く聴くように促すと、息を使って出る音を選んだり、似ている音を選んだりしていた。この時間の前に、鍵盤ハーモニカで遊んでいた子供は、全ての音が鍵盤ハーモニカであると気付くことができていた。鍵盤ハーモニカからは、様々な音が出ることを気付いき、興味がさらに深まる活動として、効果的な導入であったと考えられる。何よりも、子供が興味深く、注意深く音を聴き、楽しんでいる表情を見ることができた。

3.2.1 <美しい音で吹こうとする>

①目的

子供は、皆で吹くと自分の音が聞こえなくなり、不安になって強く吹こうとする。強く吹くと、音色が汚くなったり、音が鳴らなくなったりする。そこで、自分の音の主張だけをするのではなく、いい音を長く吹けるためにロングトーンを経験させる。

②実践内容

幼児の動き	教師の手立て・動き	準備物
<ul style="list-style-type: none"> ・長く吹けるようにやってみる。 ・教師の話聞く。 ・一緒にやってみる。 ・自分がやる吹き方を決め、その方法で吹く。 ・全員で順に試す。 ・「ふう」がいい。 ・「とう」がいい。 ・グループで競争をする。 ・鍵盤ハーモニカをしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○鍵盤ハーモニカを長く吹くためには、どのように吹いたらいいでしょう。色々やってみよう。 ○これだったら長く吹けるかなというのを考えてみましょう。 A そっと吹く B ふうーっと強く吹く C はあーと吹く D ふうーと吹く E すうーと吹く F とうーと吹く ・教師がやってみせる。 ○自分がやりたいのを決めましょう ○苦しくなったら吹くのを止めます ○どれが一番長く吹けたかな？競争をします。 ○どれが一番良かったかな？ ○これから、その吹き方で吹きます。 ○その吹き方で、競争をしてみましよう。 ○鍵盤ハーモニカを片付けましよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 鍵盤ハーモニカ ハンドタオル

③評価

楽しみながら、いい音で長く吹くことが出来たか。

3.2.2 振り返り及び考察








様々な息遣いで、鍵盤ハーモニカを吹くことによって、子供は息の使い方に気づくことができていた。「ふう」は苦しくなると発言し、「そっと」は音が出ないと発言していた。この活動をすることで、息遣いが重要であることに子供自ら気付いていた。しかし、「はあっと吹く」や「すうーっと吹く」は吹くことそのものが難しく、子供への言葉かけの表現は考慮する必要があった。しかし、この活動から子供が息の使い方について自ら考えるきっかけとなったように感じられた。

3.3.1 <タンギングができるようになる>

①目的

言葉のリズムを理解し、そのリズムを鍵盤ハーモニカのタンギングを使い、言葉が分かったり演奏したりする。

②方法

幼児の動き	教師の手立て・動き	準備物
<p>・ こんにちは ・ おはようございます ・ ありがとう ・ こんばんは ・ さようなら</p> <p>・ 鍵盤ハーモニカのリズムをよく聴いて、答える。</p> <p>・ 「おはよう」です。</p> <p>・ 「トウトウトゥー」と言う。 ・ 鍵盤ハーモニカで「トウトウトゥー」と言いながら吹く。</p> <p>・ 「こんばんは」です。</p> <p>・ 「トウトウトゥー」と言う。</p>	<p>○お友達や先生やおうちの人にご挨拶しますね。どんな挨拶をしますか。</p> <p>○今から、先生がこの挨拶の中のどれかを鍵盤ハーモニカで吹きます。なんと吹いているか、当ててください。</p> <p>こんにちは </p> <p>さようなら </p> <p>こんばんは </p> <p>おはよう </p> <p>ありがとう </p> <p>○そうです。 ・リズムカード挨拶カードで確認する。</p> <p>○では、皆さんも一緒にやってみましょう。</p> <p>○「トウトウトゥー」と言います。 ○鍵盤ハーモニカで「トウトウトゥー」と言いながら吹きます。</p> <p>○次の「なんと吹いているかクイズ」です。 ・鍵盤ハーモニカで吹く。</p> <p>○そうです。 ・リズムカード挨拶カードで確認する。</p> <p>○では、皆さんも一緒にやってみましょう。</p> <p>○「トウトウトゥー」と言います。</p>	<p>挨拶カード</p> <p>おはよう </p> <p>こんばんは </p>

<p>○鍵盤ハーモニカで「トゥー トゥートゥー」と言いながら吹く。</p> <p>・それぞれ、あてっこクイズをする。</p> <p>・鍵盤ハーモニカをしまう。</p>	<p>○鍵盤ハーモニカで「トゥー トゥー」と言いながら吹きます。</p> <p>○それでは、グループに分かれて、あてっこクイズをしてみましょう。</p> <p>○鍵盤ハーモニカを片付けましょう。</p>	<p>ハンドタオル</p>
---	---	---------------

③評価

楽しみながら、言葉のリズムを理解し、タンギングを使って鍵盤ハーモニカを吹くことが出来たか。

3.3.2 振り返り及び考察

タンギングそのものを子供ができるかどうか難しいため、タンギングで言葉のリズムをわかるようにすることから始めた。この園では、「おはようございます」と丁寧挨拶するため、「おはよう」で挨拶を表現することが難しかった。しかし、鍵盤ハーモニカのリズムとタンギングによって、なんと言っているのかクイズそのものは、楽しみつつ理解することができた。

子供がタンギングを使って鍵盤ハーモニカを吹くことについては、正確性や厳密性を求めるのではなく、楽しませることで十分ではないだろうか。この時間にタンギングができる子供の方がかなり少ないと感じられたため、タンギングが出来るようになることを求めなくていいのではないかと考える。この時期の子供には、「鍵盤ハーモニカって楽しい」と思わせることの方が、重要だと考えるからである。

3.4.1 <鍵盤ハーモニカで曲を演奏しよう 1>

①目的

鍵盤ハーモニカを使って曲を演奏できるように、「ドレ」の場所を知ったり、スムーズに演奏するために指の形を知ったりする。最終的に、歌に合わせて鍵盤ハーモニカを演奏できるようにする。

②方法

幼児の動き	教師の手立て・動き	準備物
<p>・「ありさんのおはなし」の歌を聴く。</p> <p>・休符のところで手を打つ。</p>	<p>○アリの話をし、この歌は知っているかな？と「ありさんのおはなし」をハ長調で歌う。その際、休符のところで、手を打つ。</p> <p>○では、皆さんも先生が手を打つところで、手を叩いてみましょう。</p> <p>○他の教員が「ありさんのおはなし」を歌い、指導者は、鍵盤ハーモニカで休符の所は「ド」を吹く。</p> <p>○皆さんもやってみましょう。</p>	<p>「ありさんのおはなし」の楽譜</p>

<p>・「ド」の場所を見つける。</p> <p>・「ありさんのおはなし」の休符の所で、「ド」を吹く。</p> <p>・子供も一緒にリズム打ちをする。</p> <p>○レ レ レドレ と歌う。</p> <p>・レの場所を見つけ、吹く。</p> <p>○レ レ レドレ と吹く。</p> <p>○□□さんの方がいい。</p> <p>・鍵盤ハーモニカの上に指の形を丸くして乗せる。</p> <p>・「ほたるこい」を吹く。</p> <p>・鍵盤ハーモニカをしまう。</p>	<p>○まず、ドの場所を見つけましょう。</p> <p>・拡大図を基に、場所を知らせ、一人ずつ確認をするために、見回る。</p> <p>○先生の歌に合わせて「ド」を吹いてみましょう。</p> <p>・わからない子供がいないか、見回りつつ、援助をする。</p> <p>○上手にできましたね。では、もっとたくさん吹いてみるために、今度はこれを聴いてください。</p> <p>・「ほたるこい」のリズム打ちをする。</p> <p></p> <p>・リズム打ちをしながら、音をリズムに乗せて指導者が歌う。</p> <p>○レ レ レドレ と歌う。</p> <p>○鍵盤ハーモニカで、</p> <p>レ レ レドレ と吹く。</p> <p>○今度は、「レ」の音が出てきました。「レ」の場所はどこかな？</p> <p>・場所が分かっているか、一人一人確認する。</p> <p>○皆で吹いてみましょう。</p> <p>・指の形がいい子供を見つける。</p> <p>・指の形がいい子供と指導者の変な指の形を見せて、「どちらがかっこいい？」「どちらが上手になりそう？」と尋ね、指の形を指導する。</p> <p>○シュークリームを右手に持って。そのまま鍵盤の上に置いてみよう。</p> <p>○その指の形で、もう一度吹いてみましょう。</p> <p>○鍵盤ハーモニカを片付けましょう。</p>	<p>・鍵盤の拡大図</p> <p>鍵盤拡大図</p> <p>ハンドタオル</p>
--	---	---

③評価

「ド」「レ」の場所を知り、楽しみながら、鍵盤ハーモニカをリズムに乗って演奏できたか。

3.4.2 振り返りと考察

子供が歌ったことのある2曲であったため、スムーズに活動に入ることができた。さら









に、歌の途中で鍵盤ハーモニカの演奏を入れるため、集中して取り組むことができた。最初は、ドだけ歌に合わせて演奏し、次の曲では、ドレを演奏することで、子供から様々な曲を演奏する興味や積極性を感じられた。そこで、指の形を最後に指導することにしたが、興味が続いているこの時間ですることは効果的であったと感じた。

また、「ありさんのおはなし」で効果音的に鍵盤ハーモニカの「ド」を使用し、「ほたるこい」で旋律の一部を「ドレ」を使って演奏することは、子供に無理もなく、曲も楽しめるため、効果があったと考える。

3.5.1 <鍵盤ハーモニカで曲を演奏しよう 2>

①目的

「ミ」の場所を知ったり、タンギングを使いながら歌に合わせて演奏したりできる。

幼児の動き	教師の手立て・動き	準備物
<p>・「ありさんのおはなし」を鍵盤ハーモニカで吹く。</p> <p>・「ほたるこい」を鍵盤ハーモニカで吹く。</p> <p>○「チューリップ」を歌詞で歌う。</p> <p>○ドレミ  ドレミ  を階名で歌う。</p> <p>・ソミレドレミレ と ソミレドレミドのフレーズは、指導者が歌っているのを聴く。</p> <p>・ミの場所を知る。</p> <p>・ドレミ  ドレミ  と吹く。</p>	<p>○この前みんなで鍵盤ハーモニカを演奏した「ありさんのおはなし」をやってみましょう。</p> <p>・指導者は子どもたちを見回りながら歌う。</p> <p>・指の形にも気を付けて見回る。</p> <p>○「ほたるこい」は覚えているかな？ やってみましょう。</p> <p>・鍵盤の位置や指の形を忘れている場合には、確認をする。</p> <p>○「チューリップ」の歌は知っているかな。皆で歌ってみましょう。</p> <p>○今度は、最初の所だけドレミで歌います。</p> <p>・子供が階名で歌っている時に、指導者が鍵盤ハーモニカで</p> <p>ドレミ  ドレミ  と演奏する。</p> <p>*ソミレドレミレ と ソミレドレミドのフレーズは、鍵盤ハーモニカではなく、指導者が歌う。</p> <p>○皆さんも、鍵盤ハーモニカで吹いてみましょう。</p> <p>まず、「ミ」の場所を確認します。</p> <p>・個別に確認をする。</p> <p>・ドレミ  ドレミ  の所だけ演奏し、子どもと一緒に吹く。</p> <p>・わからない子供がいないか、確認しながら演奏する。</p>	<p>拡大鍵盤</p> <p>拡大楽譜</p> <p>拡大鍵盤</p>

<ul style="list-style-type: none"> ・歌に合わせて吹く。 ・「ミミレレド」の部分を鍵盤ハーモニカで吹く。 ・タンギングを使って吹く。 ・鍵盤ハーモニカを吹く。 ・鍵盤ハーモニカをしまう。 	<ul style="list-style-type: none"> ○では、歌に合わせて鍵盤ハーモニカで吹いてみましょう。 ・ソソミソラソまで歌い、「ミミレレド」の部分を鍵盤ハーモニカで吹く。 ○「ミミレレド」の所をみんなも吹いてみましょう。 ○「トゥトゥ」で吹けてるかな？ この方が、苦しくないよ。 ・タンギングの確認をする。 ・「ミミレレド」の部分は特に、連続音のため、タンギングを使って、演奏できるように声掛けをする。 ○チューリップを最初から吹いてみましょう。 ・拡大楽譜で、吹くところがわかるように、確認しながら示す。 ○鍵盤ハーモニカを片付けましょう。 	<p>拡大楽譜</p> <p>ハンドタオル</p>
---	--	---------------------------

③評価

「ミ」の場所を知り、タンギングを使ってチューリップを演奏することが出来る。

3.5.2 振り返りと評価

前時に引き続き、歌唱曲に鍵盤ハーモニカで演奏を入れる活動を取り入れた。本時では「ドレ」に続き、「ミ」の場所を知り演奏することを目指したが、チューリップの歌も子供が知っているため、無理なく進めることができた。「ソ」が出てきて、指の動きが難しいフレーズは演奏させなかったが、導入の時期でもあるため、それでよかったと考える。しかし、タンギングについて、時折声掛けをしながらさせていたが、タンギングは前時同様、難しかったのではないと思われる。ただし、できる子供にとってはタンギングについて知っておくと演奏の呼吸が楽になる上、音色も美しくなるため、声掛けを適宜するのは必要ではないかと考える。

まとめ

本論では、現場の教員や保育士に鍵盤ハーモニカの指導の状況について調査した上で、実践を行った。調査では、大阪府の使用状況と同様の結果が出た。これは、教育要領ではつきり明記されていることではないが、幼稚園や保育所・認定こども園では、身近な旋律楽器として使用されていると考えられる。楽器の準備状況も、保護者にゆだねられていることが多くメーカーによって形状が若干違うため、教員や保育士は指導に手間がかかることも考えられる。さらに、最近では通信販売で購入している家庭もあり、そのことによって音色や部品が良いとは言いがたい物も見られるようになってきた。しかし、教育要領で義務付けられている楽器ではないことや楽器そのものの価格も安いとは言いがたく、メーカーを指

定することは難しいのではないかと考えられる。

鍵盤ハーモニカの実践については、純心幼稚園の先生方にご協力をいただき、子供たちが喜び楽しんで実践をすることができた。導入時期に演奏の仕方を教え込むのではなく、「鍵盤ハーモニカという楽器は楽しい」と興味や楽器を演奏する積極性を育むことが重要だと考える。そこで、クイズを用いた導入を仕組んだことは効果的であったと考える。しかしながら、タンギングについては様々な先行研究でも疑問視する声もあったことや、実践した時の子供の様子から無理にできるようにさせることが必要とは思えなかった。

子供たちに、タンギングについて知らせ、できるようにであれば適宜声掛けをしながらできるようにすることが大切なのではないかと感じた。今後も、導入期の指導について研究を進めていきたい。

純心幼稚園の先生方のご協力に感謝いたします。

引用文献

- (1) 文部科学省「小学校学習指導要領解説 音楽編」株式会社 教育芸術社 平成20年 p74
- (2) 文部科学省「幼稚園教育要領解説」株式会社 フレーベル館 平成30年 p240
- (3)(4)同上 p240
- (5)(6)同上 p90

参考文献

- ・谷村宏子・門脇早聡子 (2012)「就学前教育としての鍵盤ハーモニカ導入の指導に関する一考察」『教育学論究 4号』関西学院大学
- ・山本美紀・筒井はる香 (2016)「初等教育における鍵盤ハーモニカ学習の役割」『奈良学園大学紀要 5巻』奈良学園大学
- ・奥田順也 (2016)「小学校低学年を対象とする鍵盤ハーモニカの指導の今日的課題に関する一考察」『芸術研究 8 -玉川大学芸術学部研究紀要-』玉川大学
- ・居川寛子 (2017)「幼児教育における鍵盤ハーモニカ指導教材の考察」『研究紀要 第50巻第1号・第2号合併号』くらしき作陽大学・作陽音楽短期大学